京都帝國大學經濟學會

經濟論叢

第二十四卷　第六號

昭和二年六月一日發行

論叢

マルクスの農業經濟觀……教授　法學博士　河田嗣郎

所得申告遺漏の補完方法……教授　法學博士　神戸正雄

國家と社會……助教授　法學士　作田莊一

說苑

ブルゲン氏の諸社會主義評論　教授　法學博士　田島錦治

產業としての林業の特性……教授　林學士　經濟學士　平田憲夫

琉球の癈藩置縣……教授　法學博士　山本美越乃

雜錄

津輕藩の武士歸農策……教授　經濟學士　黑正巖

統計に於ける二重計算……彥根高等商業學校教授　經濟學士　岡崎文規

銀行法と普通銀行の資本金……助教授　法學士　汐見三郎

法令

支拂猶豫ノ件・日本銀行特別融通及損失補償法・臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律・特別融通審査會規則・商工會議所法・計理士法・保稅倉庫法中改正・保稅工場法

附錄

本誌第二十四卷總目錄

法令

私法上ノ金錢債務ノ支拂延期及手形等ノ權利保存行爲ノ期間延長ニ關スル件

勅令第九十六號（昭和二年四月二十二日）

第一條　昭和二年四月二十二日以前ニ發生シ同日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ於テ支拂ヲ爲スヘキ私法上ノ金錢債務ニシテ勅令ヲ以テ指定スル地區內ニ住所又ハ營業所ヲ有スル債務者ノ負擔スルモノニ付テハ二十一日間其ノ支拂ヲ延期ス但シ債務者カ其ノ地區外ニ他ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ該營業所ノ取引ニ關スル債務ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　左ニ揭クル支拂ニ付テハ前條ノ規定ヲ適用セス

一　國、府縣其ノ他ノ公共團體ノ債務ノ支拂

二　給料及勞銀ノ支拂

三　給料及勞銀ノ支拂ノ爲ニスル銀行預金ノ支拂

四　前號以外ノ銀行預金ノ支拂ニシテ一日五百圓以下ノモノ

第三條　手形其ノ他之ニ準スヘキ有價證券ニ關シ昭和二年四月二十二日ヨリ同年五月十二日迄ノ間ニ第一條ニ規定スル地區、內ニ於テ權利保存ノ爲ニ爲スヘキ行爲ハ其ノ行爲ヲ爲スヘキ時期ヨリ二十一日內ニ之ヲ爲スニ因リテ其ノ效力ヲ有ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和二年勅令第九十六號第一條ノ規定ニ依ル指定地區

內地、朝鮮、關東州（南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）及樺太

日本銀行特別融通及損失補償法

法律第五十五號（昭和二年五月九日）

第一條　日本銀行ハ現ニ預金ノ拂戻停止中ニ非サル銀行ヨリ其ノ預金（定期積金ヲ含ム）ノ支拂準備ニ充ツル爲資金融通ノ請求アリタル場合ニ於テ財界ノ安定ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ之ニ對シ手形割引ノ方法ニ依リ大藏大臣ノ定ムル特別融通ヲ爲スコトヲ得

現ニ預金ノ拂戻停止中ノ銀行ニシテ將來營業繼續ノ見込アルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス

日本銀行カ前二項ノ特別融通ヲ爲スニ付テハ特別融通審査會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス

特別融通審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　日本銀行カ前條ノ特別融通ノ爲ニスル手形割引ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ一年トス

第三條　第一條ノ特別融通ノ爲ニスル手形ノ書換ノ爲ニ振出シタル手形ノ割引ニ依ル特別融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ十

年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　政府ハ本法ニ依ル特別融通ニ因リテ日本銀行ガ損失ヲ受ケタルトキハ同行ニ對シ五億圓ヲ限リ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五條　本法ニ依ル特別融通ニ因リテ日本銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ特別融通損失審査會之ヲ決定ス

特別融通損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　第四條第一項ノ契約ニ基キ政府カ日本銀行ニ對シテ支拂フヘキ損失補償金ハ五分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第七條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年四月二十二日ヨリ本法施行ノ日ノ前日迄ニ日本銀行ノ爲シタル手形割引ニ依ル融通ニシテ第一條ノ特別融通ニ相當スルモノハ之ヲ第一條ノ特別融通ト看做ス

日本銀行特別融通及損失補償法第一條ニ依ル特別融通ニ關スル規程

大藏省令第十二號（昭和二年五月九日）

第一條　日本銀行カ特別融通ヲ爲ス場合ニ於テハ本令ノ定ムル所ニ依リ特別融通審査會ノ議ヲ經ルモノトス

第二條　日本銀行カ特別融通ノ爲手形割引ヲ爲ス場合ニ於テハ有價證券、不動産及法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ擔保トスル債權ヲ見返ト爲スコトヲ得

特別ノ必要アル場合ニ於テハ日本銀行ハ大藏大臣ノ承認ヲ受ケ前項ニ定ムル以外ノモノヲ見返ト爲シ手形割引ヲ爲スコトヲ得

第三條　日本銀行カ特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル割引歩合ハ國債擔保ノ貸付利率ニ依ルモノトス

日本銀行ハ特別融通ヲ爲シタル銀行ノ狀況ニ依リ特別融通資金ノ回收ヲ促進スル爲必要アリト認ムルトキハ特別融通手形書換ノ場合ニ於テ其ノ割引歩合ヲ高ムルコトヲ得

第四條　日本銀行ハ特別融通ノ爲割引ヲ爲シタル手形ニ關シ必要ナル事項ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第五條　日本銀行ハ特別融通ヲ爲シタル銀行ニ對シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其ノ資産負債及營業ノ狀態ヲ調査スルコトヲ得ヘキ旨契約ヲ締結スヘシ

日本銀行カ前項ノ契約ニ依リ調査ヲ爲シタルトキハ其ノ結果ヲ大藏大臣ニ報告スヘシ

第六條　日本銀行ハ特別融通ヲ爲シタル銀行ト契約ヲ締結シ少クトモ毎月一回日計表其ノ他必要ト認ムル書類各二通ヲ提出

セシムヘシ

日本銀行ハ前項ノ契約ニ依リ徵シタル書類各一通ヲ大藏大臣ニ提出スヘシ

第七條　不動產又ハ法律ノ規定ニ依リ設定シタル財團ヲ擔保トスル債權ヲ見返トスル特別融通ニ付テハ日本銀行ハ株式會社日本勸業銀行、農工銀行、株式會社北海道拓殖銀行又ハ株式會社日本興業銀行ヲシテ日本銀行ノ爲其ノ事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得

朝鮮、關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於ケル朝鮮銀行以外ノ銀行ニ對スル特別融通ニ付テハ日本銀行ハ朝鮮銀行ヲシテ日本銀行ノ爲其ノ業務ヲ代理セシムルコトヲ得

臺灣ニ於ケル株式會社臺灣銀行以外ノ銀行ニ對スル特別融通ニ付テハ日本銀行ハ株式會社臺灣銀行ヲシテ日本銀行ノ爲其ノ業務ヲ代理セシムルコトヲ得

樺太ニ於ケル株式會社北海道拓殖銀行以外ノ銀行ニ對スル特別融通ニ付テハ日本銀行ハ株式會社北海道拓殖銀行ヲシテ日本銀行ノ爲其ノ業務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條　特別融通ニ關シテハ本令ニ依ルモノノ外大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣ノ金融機關ニ對スル資金融通ニ關スル法律

法　令

第一條　政府ハ臺灣統治ノ必要上臺灣ニ於ケル金融機關ヲシテ其ノ機能ヲ維持セシムル爲又ハ海外ニ於ケル帝國ノ信用ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ日本銀行ヲシテ臺灣ニ於ケル金融機關ニ對シ手形割引ノ方法ニ依リ二億圓ヲ限リ資金ノ融通ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條　日本銀行ヲシテ前條ノ融通ノ爲ニスル手形割引ヲ爲サシムル期間ハ本法施行ノ日ヨリ一年トス

第三條　政府ハ本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行カ損失ヲ受ケタルトキハ同行ニ對シ二億圓ヲ限リ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

第四條　本法ニ依ル融通ニ因リテ日本銀行ノ受ケタル損失及其ノ額ハ日本銀行特別融通及損失補償法第五條ノ特別融通損失審査會之ヲ決定ス

第五條　日本銀行特別融通及損失補償法第三條、第四條第二項及第六條乃至第八條ノ規定ハ本法ニ依ル融通、之ニ因ル日本銀行ノ損失及其ノ補償ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特別融通審査會規則

勅令第百六號（昭和二年五月九日）

第一條　特別融通審査會ハ大藏大臣ノ監督ニ屬シ日本銀行特別

融通及損失補償法第一條ノ規定ニ依リ日本銀行ノ爲ス特別融通ニ付必要ナル事項ヲ調査審議ス

第二條　特別融通審査會ハ會長一人及委員若干人ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ日本銀行總裁ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ大藏省高等官、日本銀行副總裁及理事ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ大藏大臣ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第五條　特別融通審査會ニ幹事若干人ヲ置ク大藏省高等官及日本銀行職員ノ中ヨリ大藏大臣之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　本令ニ規定スルモノノ外議案ノ付議其ノ他特別融通審査會ニ關シ必要ナル事項ハ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

商工會議所法

法律第四十九號（昭和二年四月四日）

第一條　商工會議所ハ商工業ノ改善發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條　商工會議所ハ法人トス

第三條　商工會議所ノ地區ハ市ノ區域ニ依ル但シ商工業ノ狀況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ町ノ區域ニ依ルコトヲ得

特別ノ事情アル場合ニ於テハ市ト市町村又ハ町ト町村ヲ合シテ一地區ト爲スコトヲ得

第四條　商工會議所ヲ設立セントスルトキハ第十二條第一號ノ議員ノ被選擧權ヲ有スヘキ者三十人以上發起人ト爲リ其ノ議員ノ選擧權ヲ有スヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　商工會議所ハ前條ノ設立ノ認可アリタル日ニ於テ成立ス

商工會議所成立ノ後役員ノ選任アル迄ノ間必要ナル事務ハ發起人之ヲ行フ

第六條　定款ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　名稱、地區及事務所ノ所在地

二　議員ノ定數竝ニ其ノ選擧及選定ニ關スル規定

三　役員ノ定數、權限及選任ニ關スル規定

四　會議ニ關スル規定

五　事業及其ノ執行ニ關スル規定

六　庶務及會計ニ關スル規定

第七條　商工會議所ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　商工業ニ關スル通報

二　商工業ニ關スル仲介又ハ斡旋

三　商工業ニ關スル調停又ハ仲裁

四　商工業ニ關スル證明又ハ鑑定

五　商工業ニ關スル統計ノ調査及編纂

六　商工業ニ關スル營造物ノ設置及管理

七　其ノ他商工業ノ改善發達ヲ圖ルニ必要ナル事業

第八條　商工會議所ハ商工業ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

商工會議所ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

商工會議所ニ商業部及工業部ヲ置ク場合ニ於テハ部ハ定款ノ定ムル所ニ依リ各前二項ノ建議又ハ答申ヲ爲スコトヲ得

第九條　行政官廳ハ商工會議所ニ對シ商工業ニ關スル事項ノ調査ヲ命スルコトヲ得

第十條　商工會議所ハ商工業者ニ對シ商工業ニ關スル統計其ノ他ノ調査ヲ爲ス爲必要ナル資料ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　商工會議所ニ議員總會ヲ置ク

第十二條　議員總會ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ヲ組織ス

一　第十四條乃至第十八條ノ規定ニ依リ被選擧權アル者ニ就キ選擧人ノ選擧シタル議員

二　地區內ノ重要商工業ヲ代表セシムル爲第十九條ノ規定ニ依リ選定シタル議員

第十三條　議員ノ定數ハ五十人以內トシ前條第二號ノ議員ノ員數ハ議員定數ノ五分ノ一トス但シ地方ノ狀況ニ依リ其ノ割合ヲ五分ノ一未滿トスルコトヲ妨ケス

同一商工會議所ニ於テ前條第一號ノ議員ト同條第二號ノ議員トヲ兼ヌルコトヲ得ス

第十四條　左ノ條件ヲ具フル者ハ第十二條第一號ノ議員ノ選擧權ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ帝國法令ニ依リ設立シタル會社ナルコト但シ會社ニ在リテハ資本又ハ財產ヲ目的トスル出資ノ半額以上及議決權ノ過半數カ帝國臣民（帝國法令ニ依リ設立シタル法人ヲ含ム）ニ屬スルモノタルコトヲ要ス

二　商工會議所ノ地區內ニ於テ引續キ二年以上本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スルコト

三　自己ノ名ヲ以テ商行爲ヲ爲スヲ業トスル者、取引所又ハ鑛業權者ニシテ商工會議所ノ地區內ニ於テ營業收益稅、取引所營業稅又ハ鑛產稅ヲ一年間ニ命令ノ定ムル額以上納ムルコト但シ地區外ニモ營業場ヲ有スル者ノ納稅額ノ算出方法ニ付テハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項第三號ノ納稅額決定以前ニ於テハ其ノ最近ニ決定セラレタル一年間ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅額ト看做ス

會社ノ資本又ハ財產ヲ目的トスル出資カ命令ノ定ムル金額以上ナル場合ニ於テハ第一項第三號ノ納稅ニ關スル條件ヲ具ヘサルトキト雖モ第一項ノ選擧權ヲ有ス

家督相續ヲ爲シタル者ニ付テハ第一項ノ選擧權ニ關スル條件ニシテ被相續人ノ具備シタルモノハ之ヲ其ノ者ノ具備シタルモノト看做ス

合併後存續スル會社又ハ合併ニ因リテ設立シタル會社ニ付テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ選擧權ヲ有セス

一　破產者ニシテ復權ヲ得サル者

二　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ

又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第十六條　第十二條第一號ノ議員ノ選擧權ヲ有スル者ハ其ノ被選擧權ヲ有ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ被選擧權ヲ有セス

一　禁治産者及準禁治産者

二　女子及年齢三十歳未滿ノ者

第十八條　第十二條第一號ノ議員ノ選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

投票ハ選擧人自ラ之ヲ行フ但シ會社及無能力者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ代人ヲ以テ之ヲ行フ

投票ハ單記投票又ハ五人以内ノ連名投票ノ方法ニ依ル

選擧ハ選擧人ヲ二級ニ分チテ之ヲ行フコトヲ得

前五項ニ規定スルモノノ外選擧ノ方法、手續、取締其ノ他選擧ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條　第十二條第二號ノ議員ハ地區内ノ重要商工業一業種ニ付各一人トス

前項ノ重要商工業ノ種目ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第一項ノ議員ハ第十四條第一項第一號ノ條件ヲ具フル者タルコトヲ要ス

第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者ハ第一項ノ議員タルコトヲ得ス

前四項ニ規定スルモノノ外第一項ノ議員ノ選定ニ關シテハ定款ノ定ムル所ニ依ル

第二十條　議員タル會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ代表者ヲ定ムヘシ

前項ノ代表者ハ會社ノ業務ヲ執行スル社員若ハ役員又ハ登記シタル支配人ニシテ帝國臣民タルコトヲ要ス

一人ニシテ同一商工會議所ニ於テ二以上ノ會社ノ代表者ト爲ルコトヲ得ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條ノ代表者タルコトヲ得ス

一　第十五條又ハ第十七條各號ノ一ニ該當スル者

二　同一商工會議所ノ議員タル者

三　第十二條第一號ノ議員ノ選擧權及被選擧權停止中ノ者

第二十二條　議員ハ名譽職トス

第二十三條　議員ノ任期ハ四年トス

前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選擧ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第二十四條　第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ被選擧權ヲ有セサルニ至リタル者ハ其ノ職ヲ失フ但シ納稅ニ關スル條件ヲ失ヒタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條第一號ノ議員ニシテ其ノ選擧權及被選擧權ヲ停止セラレタル者亦前項ニ同シ

第二十五條　左ノ事項ハ議員總會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

一　定款ノ變更

二　經費ノ豫算及賦課徴收方法

三　事業報告及收支決算ノ承認
四　借入金
五　顧問ノ選任又ハ解任
六　議員又ハ役員ノ解任
七　過怠金ノ賦課
八　第十二條第一號ノ議員ノ選舉權及被選舉權ノ停止
九　商工會議所ノ解散
十　日本商工會議所設立ノ同意
十一　其ノ他重要ナル事項
前項第一號、第二號、第四號及第九號ニ掲グル事項ノ議決ハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第二十六條　議員總會ハ會頭之ヲ招集ス
議員總會ノ議長ハ會頭、會頭事故アルトキハ副會頭ヲ以テ之ニ充ツ會頭及副會頭共ニ事故アルトキハ出席議員ノ互選ニ依リ議長ヲ定ム
議員總會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス
議員總會ノ議決ハ出席議員ノ過半數ニ依リ可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
前條第一項第一號、第四號及第六號乃至第九號ニ掲クル事項ノ議決ハ議員三分ノ二以上出席シ其ノ出席議員三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
第二十七條　商工會議所ニ左ノ役員ヲ置ク
會頭　一人
副會頭　一人又ハ二人
會頭ハ商工會議所ヲ代表シ所務ヲ總理ス
副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
會頭及副會頭ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得
第二十八條　役員ハ議員總會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選任ス
第二十九條　役員ノ任期ハ四年トス
前項ノ期間ハ第十二條第一號ノ議員ノ總選舉ノ第一日ヨリ之ヲ起算ス
第三十條　役員議員ノ職ヲ失ヒタルトキハ役員ノ職ヲ失フ
第三十一條　議員タル會社役員ニ選任セラレタル後第二十條第一項ノ規定ニ依ル其ノ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ會社ハ役員ノ職ヲ失フ
第三十二條　役員ノ職務終了シタル場合ニ於テ所務ノ遂行ニ支障ヲ生スル虞アルトキハ退職シタル役員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ後任者ノ就職スル迄引續キ仍其ノ職務ヲ行フコトヲ得
第三十三條　商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ重要ナル事項ニ付諮問ヲ爲ス爲議員定數ノ五分ノ一ヲ超エサル員數ノ顧問ヲ置クコトヲ得
顧問ハ商工業ニ關スル學識經驗アル者又ハ十年以上議員トシテ功勞顯著ナル者ヨリ之ヲ選任ス
顧問ハ名譽職トス
第三十四條　商工會議所ニ理事一人ヲ置ク

理事ハ會頭ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌理ス

理事ノ外商工會議所ニハ定款ノ定ムル所ニ依リ他ノ職員ヲ置クコトヲ得

第三十五條　商工會議所ハ必要ニ應ジ商業部、工業部又ハ其ノ他ノ部ヲ置クコトヲ得

部ノ名稱、組織、權限其ノ他部ニ關シ必要ナル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ム

第三十六條　商工會議所ハ第十二條第一號ノ議員ノ選擧權ヲ有スル者ニ對シ經費ヲ賦課スルコトヲ得

第四十一條又ハ第五十二條ノ規定ニ依リ選擧權ヲ停止セラレタル者ニ對シテハ停止中ト雖モ經費ヲ賦課スルコトヲ得

商工會議所ノ經費賦課ノ額ニ關スル制限及經費賦課ノ方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十七條　商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ヨリ過怠金ヲ徴收スルコトヲ得

第三十八條　經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ會頭ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ商工會議所ハ其ノ徴收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項ノ徴收金ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徴收金ニ次デ先取特權ヲ有シ其ノ時效ニ付テハ市町村稅ノ例ニ依ル

經費ノ賦課又ハ過怠金ノ徴收ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立、訴願及行政訴訟ヲ爲スコトヲ得

第三十九條　商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ使用料及手數料ヲ徴收スルコトヲ得

前項ノ使用料及手數料ノ徴收ニ關シテハ民事訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十條　商工會議所ハ職務ヲ怠リ其ノ他不正ノ行爲アリタル議員又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第四十一條　商工會議所ハ經費ヲ滯納シタル者ニ對シ其ノ滯納中、前條ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ニ對シ解任ノ時ヨリ四年以內第十二號第一號ノ議員ノ選擧權及被選擧權ヲ停止スルコトヲ得

第四十二條　商工會議所ハ收支決算ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

商工會議所ハ少クトモ每年一回其ノ事業成績ヲ主務大臣ニ報告スヘシ

第四十三條　商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ淸算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第四十四條　商工會議所解散シタルトキハ議員總會ニ於テ淸算人ヲ選任スヘシ淸算人缺ケタルトキ亦同シ

淸算人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四十五條　前條ノ規定ニ依リ淸算人タル者ナキトキハ行政官廳淸算人ヲ選任ス

第四十六條　淸算人ハ商工會議所ヲ代表シ淸算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

第四十七條　淸算人ハ淸算及財產處分ノ方法ヲ定メ議員總會ノ議決ヲ經主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

議員總會前項ノ議決ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハサルトキハ淸

算人ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ清算及財産處分ノ方法ヲ定ムヘシ

第四十八條　商工會議所ハ解散ノ後ト雖モ其ノ債務ヲ完濟スルニ必要ナル金額ヲ賦課徴收スルコトヲ得

前項ノ賦課徴收ニ關シテハ第三十六條及第三十八條ノ規定ヲ準用ス

第四十九條　主務大臣必要ト認ムルトキハ定款、經費ノ豫算及賦課徴收方法又ハ清算及財産處分ノ方法ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第五十條　第十二條第一號ノ議員ノ選擧法令又ハ定款ニ違反スルトキハ主務大臣ハ當選ノ取消ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　商工會議所ノ議決又ハ議員、役員若ハ清算人ノ行爲法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　議員、役員又ハ清算人ノ解任

二　商工會議所ノ議決ノ取消

三　商工會議所ノ事業ノ停止

四　商工會議所ノ解散

第五十二條　主務大臣ハ不正ノ行爲アリタルニ因リ第五十條ノ規定ニ基キ當選ヲ取消サレタル者又ハ前條第一號ノ規定ニ依リ解任セラレタル議員若ハ役員ニ對シ取消又ハ解任ノ時ヨリ四年以内第十二條第一號ノ議員ノ選擧權及被選擧權ヲ停止スルコトヲ得

第五十三條　商工會議所ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲日本商工會議所ヲ設立スルコトヲ得

日本商工會議所ハ法人トス

日本商工會議所ヲ設立セントスルトキハ六以上ノ商工會議所發起人ト爲リ商工會議所總數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款其ノ他必要ナル事項ヲ定メ役員ヲ選任シ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條　日本商工會議所設立シタルトキハ商工會議所ハ總テ之ニ加入シタルモノト看做ス

日本商工會議所ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ朝鮮、臺灣、樺太、關東州又ハ外國ニ於テ設立シタル商工會議所ニ準スル法人其ノ他ノ團體ヲ加入セシムルコトヲ得

第五十五條　日本商工會議所ニ總會ヲ置ク

總會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ各商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五十六條　日本商工會議所ニ常議員會ヲ置ク

常議員會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ニ於テ選定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス

常議員會ハ定款ニ依リ委任セラレタル總會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス但シ定款ノ變更及日本商工會議所ノ解散ノ議決ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條　日本商工會議所ノ役員ハ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ會頭又ハ副會頭ニ限リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ニ非サル者ヨリ之ヲ選任スルコトヲ得

日本商工會議所所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員中ヨリ選任セラレタル役員其ノ商工會議所其ノ他ノ團體ノ役員ノ職ヲ失ヒタルトキハ日本商工會議所ノ役員ノ職ヲ失フ

第五十八條　日本商工會議所ハ定款ノ定ムル所ニ依リ所屬ノ商工會議所其ノ他ノ團體ニ對シ經費ヲ分賦シ及過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第五十九條　第五條第一項、第六條乃至第十條、第二十條乃至第二十二條、第二十五條乃至第二十七條、第二十九條第一項、第三十二條乃至第三十五條、第三十六條第三項、第三十八條第三項、第三十九條、第四十條、第四十二條乃至第四十九條及第五十一條ノ規定ハ日本商工會議所ニ之ヲ準用ス

第六十條　主務大臣ハ本法ニ規定シタル其ノ職權ノ一部ヲ行政官廳ニ委任スルコトヲ得

第六十一條　第三條及第三十八條中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

商業會議所法ハ之ヲ廢止ス

商業會議所法ニ依リ設立セラレ本法施行ノ際現ニ存スル商業會議所ハ之ヲ本法ニ依リ設立シタル商工會議所ト看做ス

前項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付テハ議員ノ選擧又ハ選定ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ之ヲ施行シ其ノ施行前ニ於ケル議員ノ選擧ニ關スル事項ハ仍舊法ノ規定ニ依ル

第三項ノ規定ニ依ル商工會議所ニ付本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

日本銀行及橫濱正金銀行ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ會社ト看做ス

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ之ヲ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

計理士法

法律第三十一號（昭和二年三月三十日）

第一條　計理士ハ計理士ノ稱號ヲ用ヒテ會計ニ關スル檢査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ヲ爲スコトヲ業トスルモノトス

第二條　左ノ條件ヲ具フル者ハ計理士タル資格ヲ有ス

一　帝國臣民又ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ外國ノ國籍ヲ有スル者ニシテ法上ノ能力者タルコト

二　計理士試驗ニ合格シタルコト

計理士試驗ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士タル資格ヲ有ス

一　會計學ヲ修メタル經濟學博士又ハ商學博士

二　帝國大學若ハ大學令ニ依ル大學ニ於テ會計學ヲ修メ學士ト稱スルコトヲ得ル者又ハ專門學校令ニ依ル專門學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

三　主務大臣ニ於テ前號ニ掲クル學校ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ會計學ヲ修メ之ヲ卒業シタル者

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ計理士タル資格ヲ有セス

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ二年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者又ハ陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ニ處セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二　前號ニ該當スル者ヲ除クノ外第十一條又ハ第十二條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　破産者ニシテ復權ヲ得サル者

四　計理士ノ業務ノ停止ノ期間中其ノ業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者

五　計理士ノ業務ノ禁止ノ處分ヲ受ケタル者但シ其ノ處分ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三年ヲ經過シ主務大臣ニ於テ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　計理士タラントスル者ハ計理士登錄簿ニ登錄ヲ受クルコトヲ要ス

計理士ノ登錄ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　計理士ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ登錄料トシテ二十圓ヲ納付スヘシ

第七條　計理士ハ其ノ業務ヲ公正ニ行フニ支障アリト認メラルル事項ニ付計理士ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第八條　計理士ハ主務大臣ノ監督ニ屬ス

第九條　計理士本法ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ品位ヲ失墜スヘキ行爲若ハ業務上不正ノ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ計理士懲戒委員會ノ議決ニ依リ之ヲ懲戒スルコトヲ得

計理士懲戒委員會ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　計理士ノ懲戒處分ハ左ノ四種トス

一　譴責

二　千圓以下ノ過料

三　一年以內計理士ノ業務ノ停止

四　計理士ノ業務ノ禁止

前項第二號ノ過料ヲ完納セサルトキハ主務大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス

非訴事件手續法第二百八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル執行ニ付之ヲ準用ス

第十一條　計理士又ハ計理士タリシ者故ナク其ノ業務上取扱ヒタル事項ニ付知得タル秘密ヲ漏泄シ又ハ竊用シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第十二條　計理士タル資格ヲ有セスシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　計理士タル資格ヲ有スルモ其ノ登錄ヲ受ケスシテ計理士ノ業務ヲ行ヒタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス

非訴事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過

料ニ付之ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法ノ適用ニ付テハ明治十三年第三十六號布告刑法ノ二年ノ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ二年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ト看做ス

本法施行ノ際迄引續キ一年以上會計ニ關スル檢査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ六月以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士試驗委員ノ銓衡ヲ經テ計理士タルコトヲ得

帝國大學、大學令ニ依ル大學若ハ專門學校令ニ依ル專門學校又ハ主務大臣ニ於テ之ト同等以上ト認ムル學校ニ於テ經濟ニ關スル諸學科ヲ修メ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者ニシテ引續キ三年以上會計ニ關スル檢査、調査、鑑定、證明、計算、整理又ハ立案ノ業務又ハ職務ニ從事シタル者ハ本法施行ノ日ヨリ五年以内ニ出願シタルトキニ限リ第二條第一項第二號ノ規定ニ拘ラス計理士試驗委員ノ銓衡ヲ經テ計理士タルコトヲ得

〔參照〕

明治三十一年(六月二十一日)公布法律第十四號非訟事件手續法抄錄

第二百六條　民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第

六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

第二百七條　過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

第二百八條　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

保稅倉庫法中改正

法律第四十四號　(昭和二年三月三十一日)

第一條中「外國ニ輸出スヘキ」ヲ「命令ノ定ムル所ニ依リ」ニ改ム

第一條ノ二　保稅倉庫ニ於テハ稅關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ手入ノ材料トシテ內國貨物ヲ外國貨物ニ、外國貨物ヲ內國貨物ニ使用セムトスルトキハ稅關ノ承認ヲ受クヘシ

第三條　保稅倉庫ニ藏置シタル外國貨物ノ輸入稅ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ命令ノ定ムル所ニ依リ庫入ノ際稅關ノ檢査ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ輸入稅ハ庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス

前項ノ檢査ヲ受ケタル外國貨物カ其ノ藏置中災害ニ因リ滅失若ハ變質シ又ハ稅關ノ承認ヲ經テ滅却セラレタルトキハ其ノ現存スル部分ニ付輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ輸入稅ヲ徵收ス

第五條、第十八條、第二十四條及第二十六條中「主務大臣」ヲ「稅關長」ニ改ム

第五條ノ二　保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出セムトスルトキハ稅關ノ許可ヲ受クヘシ

第七條中「滿二箇年」ヲ「三年」ニ改ム

第九條中「當該官廳」及「政府」ヲ「稅關」ニ改ム

第一章中第九條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第九條ノ二　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物カ藏置期限ヲ經過スルモ引取ラレサルトキハ稅關ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容シ又ハ庫主ヨリ其ノ輸入稅ヲ徵收ス

第九條ノ三　稅關長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ藏置貨物ノ手入ノ停止又ハ庫出ヲ命シ其ノ他必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ貨物ノ庫出ヲ命セラレタル者之ヲ庫出セサルトキハ稅關ハ其ノ者ノ費用及危險ノ負擔ニ於テ其ノ貨物ヲ收容スルコトヲ得

第九條ノ四　關稅法第三條中收容ニ關スル規定竝同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第十二條及第十七條中「當該官廳」ヲ「稅關」ニ改ム

第十六條　削除

第十九條及第二十七條中「當該官廳」ヲ「稅關長」ニ改ム

第十三條　削除

第三十條中「主務大臣」ヲ「稅關長」ニ、「重罪輕罪ノ刑」ヲ「禁錮以上ノ刑」ニ改ム

第三十一條　第一條ノ二ノ規定ニ違反シテ貨物ノ手入ヲ爲シ又ハ貨物ヲ使用シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケスシテ保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入シ又ハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出シタル者

二　認可ヲ受ケタル貨物保管規則ニ依ラスシテ貨物ノ取扱ヲ爲シ又ハ認可ヲ受ケサル庫敷料ヲ徵シタル者

三　第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタル者

第三十三條　私設保稅倉庫ノ庫主又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム

者ノ代理人又ハ使用人カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ其ノ庫主又ハ營業者ヲ處罰ス但シ庫主又ハ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第三十一條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第三十四條　前條ノ場合ニ於テ庫主、營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ二　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第三十二條第三號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條ノ三　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關稅法ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ノ定ム

本法施行前主務大臣　私設保稅倉庫、藏置貨物ノ種類、貨物保管規則又ハ倉敷料ニ付爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分ハ稅關長ノ爲シタル特許、認可其ノ他ノ處分トシテ本法施行後仍其ノ效力ヲ有ス

本法施行前ヨリ引續キ保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ニ付テハ其ノ藏置期限ハ最初ノ庫入許可ノ日ヨリ三年トシ其ノ輸入稅ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

〔參照〕

明治三十年(三月二十九日公布)法律第十五號保稅倉庫法抄錄第一條第二項

保稅倉庫ニハ外國ニ輸出スヘキ內國貨物ヲ藏置スルコトヲ得

第三條　保稅倉庫ニ藏置シタル貨物ノ輸入稅ハ其ノ最初庫入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ減失若ハ變質シ又ハ政府ノ承認ヲ得テ滅却シタル貨物ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　保稅倉庫ニ藏置スルコトヲ得ヘキ貨物ノ種類ハ主務大臣之ヲ定ム

第七條　保稅倉庫ノ貨物藏置期限ハ庫入ノ日ヨリ滿二箇年トス

第九條　保稅倉庫ニ若ハ保稅倉庫ヨリ輸入手續未濟貨物ノ運搬スルトキハ當該官廳ハ貨主ヲシテ其ノ貨物ノ輸入稅ニ相當スル擔保ノ提供セシムルコトヲ得

前項ノ貨物當該官廳ノ指定期限內ニ仕向地ニ到達セサルトキハ輸入稅ヲ徵收ス但シ災害ニ因リ減失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條第一項

預證券盜難ニ罹リ又ハ紛失滅失シタルトキハ其ノ旨當該官

廳ニ届出ヘシ

第十六條　藏置期限ヲ經過シテ貨物ノ引取ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ利害關係者ノ費用及危險ノ負擔ヲ以テ之ヲ收容スルコトヲ得

關稅法第三條、第四十七條乃至第五十二條ノ規定ハ前項ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ適用ス

第十七條第一項

藏置ノ貨物腐敗其ノ他ノ事故ニ因リ倉庫又ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ當該官廳ハ公告シテ指定ノ期限內ニ其ノ引取ヲ命スヘシ此ノ期限ヲ經過スルモ其ノ貨物ヲ引取ラサルトキハ當該官廳ハ之ヲ滅却スルコトヲ得但シ緊急ノ必要アルトキハ期限內ニ於テモ仍之ヲ滅却スルコトヲ得

第十八條　保稅倉庫ノ業ヲ營マムトスル者ハ主務大臣ノ特許ヲ受クヘシ

第十九條　私設保稅倉庫ノ庫主ハ當該官廳ノ指揮監督ヲ承クヘシ

第二十三條　私設保稅倉庫ニ保管スル貨物ニシテ其ノ庫入ノ日ヨリ滿二箇年ヲ過クルトキハ輸入稅ヲ徵收ス

第二十四條　私設保稅倉庫ノ貨物保管規則及庫敷料ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第二十六條　私設保稅倉庫營業ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一　庫主其ノ營業ヲ廢シタルトキ

二　庫主死亡シタルトキ

三　庫主破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ

四　特許ノ期限滿了シタルトキ

五　主務大臣ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

第二十七條　私設保稅倉庫營業ノ特許消滅シタルトキハ當該官廳ハ其ノ旨ヲ公告シ貨主ヲシテ指定ノ期限內ニ其ノ藏置貨物ノ處分ヲ爲サシムヘシ但シ前營業者ノ業務ヲ引繼クカ爲ニ特許消滅後一箇月以內ニ營業ノ特許ヲ出願スル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ指定期限ヲ過ルモ貨主其ノ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ當該官廳ハ之ヲ官設保稅倉庫又ハ他ノ私設保稅倉庫ノ保管ニ移スヘシ

前項庫移ノ費用ハ貨主ノ負擔トス

第三十條　左ノ場合ニ於テハ主務大臣ハ營業ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一　業務ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキ

二　庫主輸入稅ノ負擔ニ堪ヘサルノ疑アルトキ

三　庫主重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

第三十一條　當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保稅倉庫ヨリ貨物ヲ庫出スルコトヲ得ス犯ス者ハ其ノ貨物ヲ沒收ス若既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第四條ノ規程ニ違背シタル者罰前項ニ同シ

第三十二條　當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ保稅倉庫ニ貨物ヲ庫入レスルコトヲ得ス犯ス者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

法　令

第三十三條　主務大臣ノ認可ヲ受ケスシテ私設保稅倉庫ノ貨物保管規則又ハ庫敷料ヲ定メタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條　第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ若クハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

明治三十二年(三月十四日公布)法律第六十一號關稅法抄錄

第三條　關稅ハ輸入申告ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス但シ保稅倉庫ニ庫入シタル貨物ノ關稅ハ庫出ノ日、藏置期限又ハ運送期限ノ經過ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ其ノ期間滿了ノ日ノ翌日、收容貨物ニシテ公賣ニ付スルモノノ關稅ハ公賣ノ日、第八十三條第三項ノ規定ニ依リ關稅ヲ徵收スル場合ニ於テハ犯則ノ日ニ於テ行ハルル法規ニ從ヒ之ヲ課ス

第四十七條　貨物ヲ收容シタルトキハ三日以內ニ其ノ旨ヲ揭示スヘシ

第四十八條　貨物收容ノ解除ヲ得ントスル者ハ稅關ニ申告シ其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用及敷料ヲ納メ免許ヲ受クヘシ

第五十條　貨物收容ノ日ヨリ六箇月以內ニ第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ稅關ハ其ノ記號、番號、種類、箇數ヲ公告スヘシ

前項公告ノ日ヨリ一箇月以內ニ仍第四十八條ノ申告ヲ爲ス者ナキトキハ貨物ヲ公賣ニ付シ關稅、敷料其ノ他其ノ貨物ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ貨主ニ交付ス

第五十一條　收容貨物生活力ヲ有スル動植物ナルトキ、腐敗シ若ハ腐敗ノ虞アルトキ又ハ倉庫若ハ他ノ貨物ヲ害スルノ虞アルトキハ前條ノ期限ニ拘ラス公告シテ之ヲ公賣ニ付スルコトヲ得但シ公告スルノ暇ナキトキハ公賣シタル後之ヲ公告スヘシ

第五十二條　收容貨物ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキトキハ適宜之ヲ處分スルコトヲ得

保稅工場法

法律第四十五號　(昭和二年三月三十一日)

第一條　保稅工場ハ外國貨物ニ加工シ若ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲シ又ハ外國貨物ノ改裝、仕分其ノ他ノ手入ヲ爲ス工場トス貨物ノ混合ハ之ヲ貨物ノ製造ト看做ス

第二條　保稅工場ニ於テハ稅關長ノ許可シタル範圍內ニ於テ內國貨物ニ加工シ又ハ之ヲ原料トシテ製造ヲ爲スコトヲ得

第三條　保稅工場ニ於ケル作業ノ原料ニハ內國貨物ト外國貨物トヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ內國貨物ト外國貨物トヲ使用シタル貨物ハ之ヲ外國貨物トス

第四條　保稅工場ニ於ケル作業及貨物ノ種類ハ稅關長之ヲ定ム

第五條　保稅工場ノ外國貨物ノ輸入稅ハ輸入ノ時ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス但シ命令ヲ以テ指定シタル外國貨物ニシテ

作業ノ際其ノ原料ニ付稅關ノ檢査ヲ受ケタルモノノ輸入稅ハ命令ノ定ムル所ニ依リ檢査ノ時ノ原料ノ性質及數量ニ依リ之ヲ徵收ス

前項但書ノ場合ニ於テハ徵收スヘキ輸入稅ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ利子ニ相當スル金額ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ徵收スル金額ハ之ヲ輸入稅ト看做ス

第六條　保稅工場ノ貨物藏置期間ハ移入許可ノ日ヨリ一年トス

但シ稅關長ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ更ニ一年ヲ超エサル期間內ニ於テ之ヲ延長スルコトヲ得

前項ノ期間ハ他ノ保稅工場ヨリ移入シタル貨物ニ付テハ最初ノ移入許可ノ日ヨリ之ヲ計算ス

第七條　稅關官吏ハ取締上必要アリト認ムルトキハ保稅工場ニ出入スル者ノ身邊搜索ヲ爲スコトヲ得

第八條　私設保稅工場ヲ設置セントスル者ハ稅關長ノ特許ヲ受クヘシ

第九條　私設保稅工場ノ使用規則及使用料ハ稅關長ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第十條　保稅倉庫法第五條ノ二、第九條ノ二、第九條ノ三、第十九條、第二十條及第二十五條乃至第三十條ノ規定ハ保稅工場ニ之ヲ準用ス

第十一條　關稅法第三條中收容ニ關スル規定並同法第四十七條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ本法ニ依リ收容シタル貨物ニ之ヲ準用ス

第十二條　第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シテ作業ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　許可ヲ受ケズシテ保稅工場ニ貨物ヲ移入シ又ハ保稅工場ヨリ貨物ヲ移出シタル者

二　第七條ノ搜索又ハ第十條ニ於テ準用スル保稅倉庫法第二十五條ノ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三　認可ヲ受ケタル使用規則ニ依ラスシテ保稅工場ヲ使用セシメ又ハ認可ヲ受ケサル使用料ヲ徵シタル者

第十四條　私設保稅工場設置ノ特許ヲ受ケタル者又ハ輸出若ハ輸入ノ業ヲ營ム者ノ代理人又ハ使用人カ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ其ノ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者ヲ處罰ス但シ特許ヲ受ケタル者又ハ營業者カ其ノ代理人又ハ使用人ノ監督ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルコトヲ證明スル場合及稅關貨物取扱人カ貨物ノ取扱ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

稅關貨物取扱人ノ代理人、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ處罰セラルヘキトキハ稅關貨物取扱人ヲ處罰ス

第十五條　前條ノ場合ニ於テ特許ヲ受ケタル者、營業者又ハ稅關貨物取扱人カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ヲ處罰ス但シ業務ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、

ニテモ私設保税倉庫ノ貨物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得其ノ貨物運搬中ニ在ルモノハ其ノ所在ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第二十八條　營業特許ノ消滅シタル私設保税倉庫ノ庫主又ハ其ノ相續人ハ其ノ藏置貨物ノ引取又ハ庫移ノ了ル迄ハ私設保税倉庫ニ關スル一切ノ義務ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條　第二十七條第二項ニ依リ藏置貨物ノ庫移ヲ爲シタルトキハ貨主ハ其ノ保税倉庫ニ於ケル請般ノ規則慣例ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

明治四十年(四月二十四日公布)法律第四十五號刑法抄錄

第三十八條第三項

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第三十九條第二項

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第六十六條　犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

法　令

第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒス但シ第十三條第二號ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　犯則事件ノ調査及處分ニ關シテハ關税法ヲ準用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

假置場法ハ之ヲ廢止ス

舊法ニ依リテ特許セラレタル私設假置場ハ之ヲ本法ニ依リテ特許セラレタル私設保税工場ト看做シ舊法ニ依リテ認可セラレタル貨物藏置規則及庫敷料ハ之ヲ本法ニ依リテ認可セラレタル使用規則及使用料ト看做ス

舊法ニ依リテ爲シタル處分及手續ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

舊法ニ依リテ假置場ニ藏置シタル貨物ニシテ引續キ保税工場ニ在ル貨物ノ藏置期間ハ最初ノ移入免許ノ日ヨリ一年トス但シ之ヨリ長キ期間ヲ認メラレタル貨物ニ付テハ其ノ期間ニ依ル

前項ノ貨物ノ輸入税ハ仍從前ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス

他ノ法令中税關假置場又ハ假置場トアルハ保税工場トス

〔參照〕　法律第四十四號保税倉庫法中改正ノ參照參看

明治三十年(三月二十九日公布)法律第十五號保税倉庫法抄錄

第二十條　私設保税倉庫ノ庫主ハ其ノ保管スル貨物ノ輸入税ニ付一切ノ責任ヲ有ス

第二十五號　當該官吏ハ監督上必要アリト認ムルトキハ何時